

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和元年度 第1回 相模原市下水道事業審議会専門部会		
事務局 (担当課)	下水道経営課 電話042-707-1840 (直通)		
開催日時	令和元年5月23日(木) 午前10時～11時40分		
開催場所	相模原市立総合学習センター2階 小会議室		
出席者	委員	5人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	12人(下水道経営課長、下水道料金課長、下水道保全課長、下水道整備課長、津久井下水道事務所長 他7人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 相模原市下水道ビジョンの改定について 3 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 相模原市下水道ビジョンの改定について

<事務局から資料1に基づき説明を行った後、質疑応答が行われた>

- 持続可能な開発目標（SDGs）との関連が説明されていないが、本計画とは馴染まないものという理解でよろしいか。
- 上位計画である総合計画をはじめ、本計画を含む各部門別計画についても、庁内においてSDGsとの関係性を検討中である。重点施策等の取組内容と関連するSDGsの目標を示すなど、何らかの方法で位置付けたい。
- 本計画の基本理念を、17項目あるSDGsの目標のどの項目に位置付けるかを検討する方法もある。
- 国際的な合意事項であり、取り入れる方向で調整いただきたい。
- 「市民理解の促進」という言葉には、行政側から市民への高圧的な語感がある。「説明責任をきちんと果たしていく」というような丁寧な表現に工夫したほうがよい。

<事務局から資料2に基づき説明を行った後、質疑応答が行われた>

(重点施策1 関連)

- スtockマネジメントについては、整備計画など、ポンプ場関連の取組も指標化すべきではないか。
- ご指摘のとおりであり、指標を追加させていただく。

(重点施策2 関連)

- BCP訓練における未達成項目を指標化することのことだが、そもそも未達成の項目がどの程度あるのかが不明である。
- 訓練を重ねるごとに課題が増えていくということも考えられる。
- 様々な形態の訓練を重ねることによって課題をクリアしていくことが重要と

考えており、レベルアップを目指した指標を検討したい。

- 第三者が客観的に評価しやすいよう、具体的に項目をあげていただきたい。

(重点施策3 関連)

- 汚水処理に関しては、「生活排水処理率」という一つの指標にまとめるという説明であるが、この部分だけを集約することに違和感がある。浄化槽の設置基数は目標として設定しづらいことは承知しているが、計画期間中に目標数等が変動することは構わないと思われるので、設定することが望ましい。

- 生活排水処理の内訳として、合併浄化槽の実際の設置基数を見せるということは可能であるが、この施策の指標としては処理率で表すのが一般的であり、指標とは別に、どのように「見える化」を図っていくかを検討したい。

- 「未普及アクションプラン」という行政用語的な表現でなく、「公共下水道や浄化槽などの手法で汚水整備を進める」というように、具体的に何を示しているのかを表現したほうが良い。

- 近隣市町との広域化・共同化の連携とは、具体的に、どの自治体とどのような連携を想定しているのか。

- 具体的な想定としては、農業集落排水事業の公共下水道への編入がある。

- 県が主体となって、例えば、市町村間を超えた維持管理の実施や、BCP訓練を合同で実施するなどの連携を検討することとしている。

- 既に県から何らかの具体的なアプローチがあるのか。

- 県内の市町村で6つの分科会を構成し、今年度からそれぞれ具体的な連携方策について検討する予定で、3年後を目途に計画の策定を想定している。

- 大変重要なテーマであると考えられるが、もう少しスピード感を持って検討を進めるよう、県に働きかけていただきたい。

- 汚水整備を「概成」という表現は一般的には使用されないもので、説明を工夫されたい。

(重点施策4 関連)

- 規制対象事業所への水質監視は、必ず実施すべきものなのか。

- 実施が義務付けられているものである。また、法定されているものプラスアルファで目標を設定し、進行管理することを考えており、本市の取組をアピールする機会でもあるので、指標の見せ方を工夫したい。

- 取組概要の中に、法令分とは別の独自の取組があることを明記されたい。

(重点施策6 関連)

- 出前講座については、「講座」という名称のイメージが要望の少ない原因と思われる、「要望を聞く会」等への名称変更を検討すべきである。
- 現状は全庁的な仕組みに沿って実施しているが、ご指摘を踏まえ、独自の手法も検討していきたい。
- 平成30年度の実施状況はどの程度か。
- 学校からの要望を受け、小学校に出向いて1件実施している。
- 処理場の見学件数も減っており、下水道公社では学校等への「出前教室」を増やしていくことを目標設定している。
- 下水道に関してはアウトリーチの活動が不足しており、市民ニーズの把握の観点から、あらためて見直しをすべきである。
- ホームページ等の情報発信をする際は、できるだけビジュアル化を図るなど、市民にわかりやすい表現を心がけると関心が高まる。

(その他)

- 施策の進行管理について、まず自己評価を行った上で、第三者である審議会の評価を受け、その結果を公表していくという流れは評価できるので、評価・検証に関する具体的な工程を記載したほうが良い。

(2) その他

質疑なし

以 上

相模原市下水道事業審議会専門部会委員名簿

	氏 名	所 属 等	出 欠 席	備 考
1	たけだ みきお 竹田 幹夫	相模原市自治会連合会(中央区)	出席	
2	かわしま ゆみこ 川島 由美子	公益財団法人 神奈川県下水道公社	出席	
3	ひろた はるあき 広田 啓朗	武蔵大学経済学部教授	欠席	
4	にしかわ まさし 西川 雅史	青山学院大学経済学部教授	出席	
5	きし とおる 岸 徹	日本公認会計士協会神奈川県会	欠席	
6	しのはら なおひこ 篠原 直彦	公募委員	出席	
7	すだ おさむ 須田 理	公募委員	出席	